

令和2年度 学校自己・関係者評価システムシート（私立栄東中学校）

目指す学校像	建学の精神「人間是宝」、校訓「今日学ぶ」のもと、豊かな人間形成を図り、社会に寄与する人間の育成を積極的に推進する。また、生徒一人ひとりの充実した学校生活と進路希望実現を目指し、生徒、保護者の期待に応える進路指導の在り方を実践する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平素の授業を大切にしてい意欲的に学習に取り組む姿勢を育むとともに、学力の向上および将来の進路希望を実現させるための進路プログラムの充実を図る。 2. 横断的な学習を通して、問題発見力や課題解決力、論理的思考力を培う。 3. 部活動や学校行事等を通して、個性を尊重し合う心と、さまざまな問題を深く捉えていく態度を育てる。 4. 本校の教育活動を生徒、保護者および、受験志願者、地域住民に対し、幅広く広報し、情報提供を行う。
------	--

* 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 * 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者	8名
-------	----

学校自己評価

年度目標				年度評価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	効果的な授業を展開し、基礎学力の定着および実践力の養成に努めている。 教員個々が自己研鑽をさらに積み重ね、主体的な学習姿勢の育成に努めている。 生徒個々が進路を具体的に考える将来設計に繋がるプログラムを実施する。 ICTを活用した授業を適宜取り入れ授業の向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高揚 ・基礎学力の定着と実践力の向上 ・学習指導計画に基づく教科指導力 ・進路指導、進路プログラムの充実 ・ICT教育への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業および継続学習の重要性の意識づけ ・教員個々の研鑽 ・教員の教科指導力向上 ・学習指導部会の実施 ・進路指導部会の充実 ・進路指導プログラム、進路ガイダンスの実施 ・二者、三者面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の工夫、改善により、生徒の学習意欲を高め基礎学力の定着や実践力が向上したか。 ・教科会、学年会等の指導体制が効果的に機能していたか。 ・生徒が将来像を描く機会が提供でき、意欲的に取り組めたか。 	コロナ禍の中、オンライン授業を早期から導入・実施できた。 一方で家庭学習の習慣が身につけているものとの差が大きいものの間の学力の定着度には大きく差が広がってしまった。	B	自主的に学習ができない生徒については、家庭学習をはじめとした個々の学習状況を把握し、未定着のまま放置させない。 教科内で中高の連携をはじめ、統一した教科観を持つておく必要がある。そのためには教科会はより充実させる必要がある。
2	アクティブ・ラーニングを通して問題発見力・課題解決力を養成し、グループ討議、発表等を実施している。 生徒の主体性を引き出し、さらなる意識の高揚を図る。 修学旅行や語学研修を通して、国際理解教育を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種プログラムの成果 ・生徒の意欲的な取り組み状況と成果 ・校外学習や修学旅行の事前研究や事後の発表等の取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や課題を意識させ、解決に至るプロセスを思考させる。 ・研究活動の充実 ・生徒の豊かな発想を引き出すための助言指導 ・校外学習や修学旅行の事前研究や事後の発表等の計画の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるプログラムとなっていたか。 ・生徒が主体的かつ意欲的に取り組んだか。 ・校外学習や修学旅行のレポート内容が充実したものであったか。 	コロナウイルスの蔓延予防の観点から予定されていた行事はほぼ実施できなかった。それに伴い、行事における主体的な取組をする機会がほぼ奪われてしまった。 授業内においても協働学習が行われる機会が少なかった。	B	行事についてもICTを活用したスタイルを模索していくべきである。 修学旅行などの行事の代替案を早期に検討しておく必要がある。 授業においてもオンラインで協働学習を行う方法を模索したい。
3	学校生活を通して、豊かな人間形成を図り、心身の健全な育成に努めている。 公共の場でのマナーや他者への思いやり、感謝の気持ちを持てるよう、継続的指導を徹底させる。 給食を通して、食に対する正しい知識、姿勢の育成に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組み状況 ・部活動参加状況 ・公共マナーの状況 ・道徳教育の充実 ・給食指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、体育祭等の学校行事の充実 ・部活動への参加奨励 ・生徒集会等における公共マナーの指導や講話による啓発 ・「考える道徳」の実践 ・食育指導の充実による偏食の改善、食に対する意識づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組みが意欲的であったか。 ・マナーを意識した節度ある行動がとれたか。 ・多様な価値観があることを理解し、道徳的価値について考えることができたか。 ・給食を通して正しい食習慣が身についたか。 	コロナ禍による新しい生活様式の下、改めて公共マナーなどについて多くの生徒が意識して行動できた。 公共心、公德心は「道徳」だけでは涵養できない。他者とのかかわりの中でいかに折り合いをつけて行動するかを種々の行事を通して身に付けてほしかった。	B	全体で一斉に指導するだけでなく、個別にじっくりと働きかけて行動の変容を求めていく工夫が必要である。 クラスによる温度差が生じないよう、全体集会などの機会を設けられるとよい。
4	HP、説明会を通じての外部発信およびSHIP、メール配信での保護者向けの情報提供を適宜行っている。 募集広報活動により、説明会への動員、志願者の増員に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・HPおよびSHIPの更新状況とその内容 ・学校説明会や進学相談等、積極的な募集広報活動状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の提供と内容の層の充実 ・学校説明会、体験学習等の積極的な募集広報活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・SHIPの利用状況の増加がみられたか。 ・学校説明会等の募集行事への動員が図られ、高い評価が得られたか。 ・志願者が増加したか。 	インターネット（SHIP、Google）を用いた発信が例年より多くなった。 募集活動においてもホームページ等での発信が奏功した。 一方でホームページの内容がほとんど変わっていない。	A	ホームページについては、内容の刷新を含めて検討が必要である。また、さらに効果的な方法がないか模索していく。

学校関係者評価

学校関係者からの意見・要望・評価	コロナ禍で、いち早くオンライン授業に取り組み、学習環境の保持や生徒の感染拡大を最小限に抑えたことは社会的評価からも素晴らしい。しかし、オンライン授業はインプットに偏りがちになり、知識の定着やアウトプットのフォロー体制が必要と感じる。対面、オンラインにとらわれずハイブリット学習に取り組む環境整備とサポート体制の充実を期待する。
学校関係者からの意見・要望・評価	今までに経験した事のない学習方法に生徒たちも頑張ってる臨機応変に対応し、成長を感じられるよい機会となった。 今後は校外学習等、直接人と関わる活動が制限されていくので新しい活動やICTの活用をさらに検討してほしい。
学校関係者からの意見・要望・評価	今までとは違った環境の中で他者への思いやりなどを学ぶ機会となった。今後は、学校行事の中止が続いて公共の様々なマナー等、人との繋がりが希薄になってしまいかねないのでさらなる工夫や対応が必要と感じる。 時差登校などソーシャルディスタンスは守られていると評価できる。
学校関係者からの意見・要望・評価	リモートによる学校説明会など、人の移動を伴う時間の削減や受験生の情報収集のし易さ、情報提供の早さなど何事も効率的に行われた。全国でも屈指の受験者数を誇る募集広報活動は大きな成果を挙げている。家庭連絡や情報提供も適度に行われている。